

国 語

◆語句について

実生活でよく使われる漢字を出題します。漢字練習で何度も書いて覚えるという方法もあります。そして、ゆっくりと丁寧に書くことも必要です。実際に使うことで身につくということもあります。様々な方法で漢字を習得しましょう。

また、カタカナ部分だけで答えていませんか。同じ読みでも漢字は違うということはたくさんあります。短い文章ですが、文脈を読み取って答える必要もあります。

◆物語文について

物語文を読み解くときに気を付けてほしいことがあります。それは、——線部に近いところだけで答えを決めてはいけない、ということです。これは説明文の読解でもあてはまるのですが、物語文の場合はいっそう注意してください。物語文全体をいくつかの場面に区切ってみてください。二つか三つの場面に分けられるはずです。区切り方の例を一つ紹介します。

第一場面 始め

第二場面 心情や状況の変化

第三場面 終わり

始めと終わりを比較すると、登場人物の心情や状況が必ず変化していることに気づくはずです。どこから変化が始まったのか、確かめてみてください。

この問題文の場合、「始め」にあたるのは、学校での場面です。圭太の自信過剰な性格と、無駄なことをしたがない考え方が書かれています。担任の松原先生はそんな圭太を嫌っています。先生との面談で圭太の協調性のなさなどを指摘された母親が心配して、サマーキャンプ行きを薦めるのです。ここから圭太の心情が動いていきます。キャンプに行きたくない圭太は、父親が乗り気になったことで何とかその気を変えさせようとします。その後、プレステのソフトをもらえるということで、キャンプ行きをシブシブ承知するのです。

物語文では、心情問題が必ずいくつか出題されます（問 3・問 4）。問 3 の記述式の設定問は、圭太がキャンプに行きたくないという気持ちがわかれば、パパにどのようにしてもらいたいかが出てくるはずです。問 6 の文中からの抜き出しの設定問は、圭太の人物像（考え方・心情）が読み取れていれば、適切な言葉が探せるはずです。

場面に区切り、そこにどんな「心情」や「状況」が書かれているかを確認しておけば、正解の言葉がどこに書いてありそうなのか、おおよその見当をつけることができます。区切って読む方法を、他の問題文でも試してみてください。その際、心情がわかる言動や心情語（楽しい・嬉しい・悲しい・辛い…など）に印をつけておくと、間違えずに問題を解くことができます。

◆説明文について

説明文とは、筆者が主張することを順序立てて書かれている文章です。初めから段落ごとの内容と、他の段落との関係を照らし合わせながら読み進めることが基本です。

普通、最初の段落で「話題」が示されます。次にそれに関する「具体的な例」をだしながら、筆者の意見や考えが述べられます。そして、最後にまとめとして「結論」が書かれるという形です。

出題した問題文は、国際協力の現場や発展途上国の「平和」に関連する話題です。「平和」を脅かす要因とそれを排除していくための積極的な「姿勢」と「教育」の役割についての文章です。上に書いたように、初めから最後まで、段落の中に書かれている内容を読み取りながら解答していくことが大切です。

全体の内容を簡単にまとめると、平和の砦（とりで）を築くために必要な役割である

1 態度 2 知識 3 技能

は「教育」が担っていることだという内容です。

問一 言葉の使い方の設問です。かつては戦争がない状態を「平和」と考えられていたと書かれています。これは「戦争がない状態」を守ることですが、ここでは「平和」を脅かす要因を排除（取り除くこと）することを「構築」（作り上げる）ということの説明しているので、この段落の最後に「積極的」の意味が説明されています。

問二 ア～エの教育、貧困、暴力、民族という語は本文の中で多く使われている語ですが、「平和を脅かす」という面で説明されていないのが、答えとなる「民族」です。

問三 （ ③ ）の問いが設定されている段落の例である、住民の大多数を占めるアルバニア人が少数派であるセルビア人の言葉で教育を「強制」されていたということを「構造」と読むことができます。この「構造」を言いかえている語が、答えになる「不平等」です。

問四 難しかった設問です。問いでは「どのような教育が原因なのか」を聞いています。ここで読み落とせないことは「民間人が当事者になった」ということです。民間人と民間人の戦争と読めるので、民間人同士のどちらが優れているか、劣っているかを教育で教え込むことになります。よって、この結果を生む教育の説明をしている段落を前にさかのぼれば書かれているところを見つけることができます。

問五 問四同様に難しかったようです。（ ⑤ ）の二行前から「紛争の原因」が説明されます。最後に挙げられた「民族性の違い」があります。この「違い」が答えです。（ ⑤ ）の後に「認識した相手」とあるので、どのように認識したかを、直前の段落の話題をふまえておけば答えられます。

問六 この問題文の主題に関連します。（ ⑥ ）の直前に「本来、人が学ぶ理由は」で始まる文があります。その学ぶことに対して「適切な形で提供されれば」とあるので、答えは「教育」以外にはありません。これは、みなさんよくできていました。

問七 問題文を初めから最後まででいいいに読めば、ア～オの中にある誤りを読み取れることと考えています。答えの「ウ」と「オ」は問題文の中に書かれていることをまとめています。誤りになるアは経済支援だけというところです。イは必ずしも先進国だけが平和ではありませんし、問題文の中には書かれていません。エは「貧困問題」に限定しているところが誤りです。

算 数

解答の形式は、すべての問題が□にあてはまる数字や記号を答える穴埋め式です。ちょっとした計算ミスや、単位の見間違いは致命的ですので、落ちついてあわてずに問題を解くことが大切です。

一見難しそうな面積や体積を求める問題も、基本的な知識さえ身につけていれば確実に解けますし、文章問題もその文章の意味がきちんと理解できれば、それほど苦もなく正解にたどりつけます。

では各問題を見ていきましょう。

- 〔1〕 いずれも基本的は計算問題です。正確に解けるようにしましょう。
(あ)～(え)は計算の基本で、正答率も高いですから落とさないようにしましょう。
分数や小数の計算方法、計算の順序を確認しましょう。
(お)～(き)は計算の順序や小数と分数の計算に気をつけましょう。
(く)～(さ)は単位換算と計算です。重さ、時間、長さ、容量などの単位換算ができるようにしておきましょう。
- 〔2〕 いずれも中レベルの 1 ～ 2 行程度の問題です。
一度は目にしたことのある問題でしょう。書き出したり、文章の内容を正確に読み取ったりすることが出来るようにして、正しい答を導き出せるようにしてください。
文章をよく読み、単位や質問の内容に気をつけましょう。また、図形の問題も必ず出題されるので、面積や体積の計算ができるようにしておきましょう。
- 〔3〕 数え上げの問題です。
文章の内容をよく理解し、どのような目の出方があるのか、実際に書き出してみましょう。順番に書き出していくと、数え洩らしや重複などが防げます。
- 〔4〕 推理の問題です。
問題に書かれている表を利用して、条件を書き込んでいくと、それぞれの習い事がはっきりしてきます。自分が作った表を読み取る力も試されます。
- 〔5〕 図形の問題です。
角度の正答率は高かったのですが、面積の正答率が低かったです。角度や長さを考えて、同じ面積を持つ図形がどれなのかを見つけると、(ま)や(み)の答えも見えてきます。

毎年のように出題されている問題がたくさんあります。割合を利用する問題、数え上げの問題、距離・時間・速さの問題などです。小学校で学ぶ基本を理解し解けるかが問われますので、基本に忠実に練習していきましょう。公式をただ暗記してもなかなか正解にたどり着けないこともあります。公式ばかりに頼らず、順番に書き出してみたり、実際に数えてみたりしながら答を出す練習もしてください。また、計算を正確に解く練習をたくさんしてください。正答率の高い問題、特に計算問題ではケアレスミスをしないように日ごろから練習をしましょう。基本問題の答えを正確に出すことはとても大事なことです。図形の問題では、実際に自分で図を書いてみたり、何が起きているのかよく考えてみたりすることが必要です。

理 科

理科では広く 4 分野から出題をしています。

【1】化学分野

水溶液と気体の発生についての問題です。問 1 は典型的な問題でした。問 2 は気体の発生や性質について、しっかりと理解し整理をして覚えておかないとミスにつながりました。問 3 は酸性とアルカリ性の水溶液の中和と量的関係を問う問題でした。表にある数字を読み取る力が必要です。2 つの水溶液を混ぜたとき、ぴったり中和になるときの量的関係がわかれば、他の混ぜた水溶液が何性になるのか判断できます。難しい計算ではないので、普段から量的計算に慣れておくようにしましょう。

【2】生物分野

昆虫の産卵場所、ほにゅう類の子の育ち方、植物の種子といった幅広い範囲から出題しました。いずれも知識問題で、問われている内容そのものは難しいものではなかったと思います。正答率が低くなったのは問 3（1）です。イチヨウの花は、め花とお花が別々の木でつくられ、め花がつくられる木にだけ種子（ぎんなん）ができます。イチヨウの花は裸子植物で目立たないため連想するのが難しかったかもしれませんが、他の選択肢は身近な植物であり、落ち着いて考えれば正解できたのではないかと思います。

【3】地学分野

太陽の高度や動きについて、取り上げました。太陽の南中高度や南中時刻は、季節や時間の経過と共に変わっていきます。これを単なる知識ではなく、立体空間を把握する力とそのしくみをしっかり理解することは、なかなか難しかったかと思います。いくつかの知識を組み合わせた考察問題にも対応できるよう学習を積み重ねていきましょう。

【4】物理分野

てこに関する問題です。全体的に典型的な問題を出題しました。問 1、問 2 の基本的な問題についてはよくできていましたが、問 3 の計算問題では正答率が低くなりました。基本レベルの問題であっても、「なぜ、そうなるのか」を考えながら学習することが大切です。計算問題はパターンが限られていますので、慣れるまで練習を繰り返すとよいでしょう。

社 会

例年通り、試験時間 40 分、100 点満点の出題でした。分野別には、地理的分野、歴史的分野、政治的分野がそれぞれ 2 : 2 : 1 の割合で、小問はすべて 2 点配点、計 50 問の出題でした。

■第 1 問 〈地理的分野〉

都道府県のような特徴について記述した文章を読んで、その都道府県を答え、またその場所を地図の中から選ぶという出題と、それに関連する事項を問うものでした。各都道府県の特徴については、気候、農業、工業、地誌など様々な分野について記述していますが、基本的な事項ばかりです。文章全体というよりは、特徴を表す用語を見つけることが正解への近道です。

■第 2 問 〈歴史的分野〉

大空を駆け巡る「とんび」が見た色々な時代についての記述から、その時代を類推する、というユニークな出題です。とはいえ、こちらも地理的分野同様、文章を何となく読んでいては正解に近づけません。まず、それぞれの文章から時代を表している人物名や用語を見つけることが大切です。例えば、行基・(東大寺) 大仏、平清盛、延暦寺、長篠 (の戦い)・織田信長、鎖国、(富岡) 製糸工場、東海道新幹線、大きな災害 (関東大震災)、西南戦争、平等院鳳凰堂という用語に着目できたでしょうか。正答率から見ると、延暦寺と平等院鳳凰堂が何時代の用語であるか、また平等院鳳凰堂を建てさせた人物を問う出題が難しかったといえます。

■第 3 問 〈政治的分野〉

地方自治と三権分立に関する先生と生徒の会話から類推して空欄に用語を答える形式の出題で、例年同様な形式の出題をしています。全体的には基本的な内容の出題ですが、中には会話文を良く読まないと、生徒が間違った答えをしている部分を答えさせている出題もあります。今回の出題で最も正答率が低かったのが、現在の内閣総理大臣を漢字で答えさせた問題でした。確かに「あべ」という人名は「阿部」と「安倍」、それにそれぞれの組み合わせと 4 通りの組み合わせがあり、難易度は高いといえますが、内閣総理大臣を漢字で書かせる、という出題は、中学受験では標準的なものです。

一般入試の出題については、毎年、秋以降の学校説明会においてかなり重大な出題のヒントを出しておりますので、是非ご参加いただき、参考にして下さい。また、出題の形式に慣れるという点では、過去に出題された問題をひと通り解いておくことが大切であるといえます。今回は選択問題は比較的記号で答える問題が多かったといえますが、本校では今回の政治的分野のような選んだ用語をそのまま書き写す形式の選択問題も多く出題しています。この場合、漢字を書き写し間違えると減点となってしまいますので、問題を良く見て正確に用語を書くことと、最後にもう一度見直しをすることが大切です。